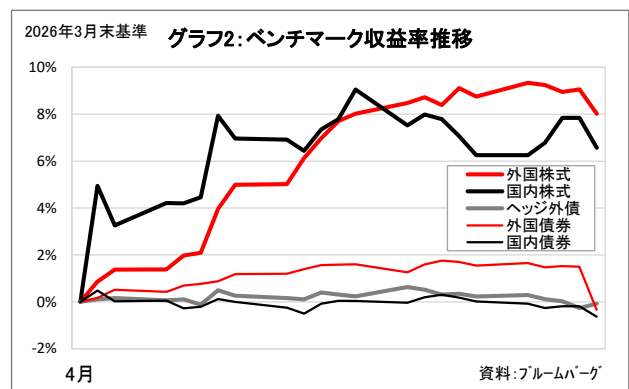
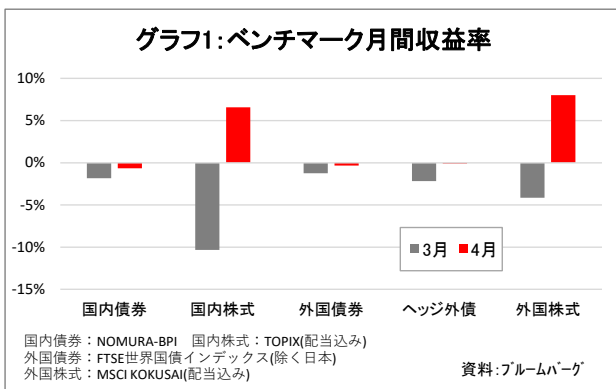


4月の市場動向と5月の注目点

1. ベンチマーク収益率 ～4月は内外株式が大幅上昇

4月は内外株式が上昇、内外債券は概ね横ばいでした。外国株式のベンチマーク収益率は8%前後と最も高く国内株式は6%台半ばでした。内外債券、ヘッジ外債はいずれも小幅のマイナスで4月を終えました。



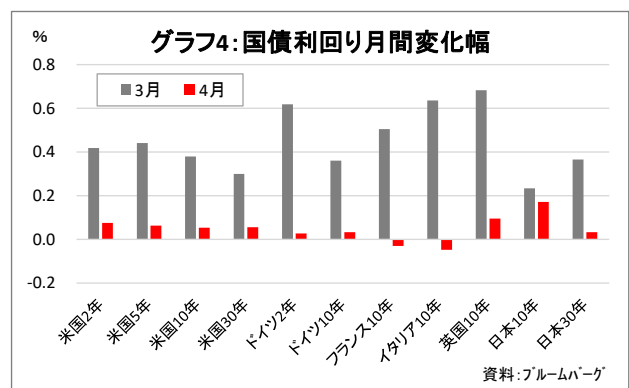
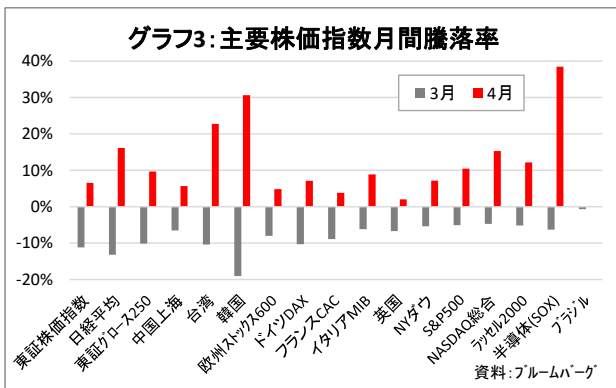
2. 各市場の動き

① 内外株式～テクノロジー関連主導で日米欧とも上昇

ホルムズ海峡封鎖等を背景に先行き不透明な状況が継続しましたが、グローバルで株価は上昇しました。米国半導体 (SOX) 指数が4割近く上昇するなど AI、半導体関連銘柄が指数全体を押し上げました。日本でもテクノロジー関連銘柄のウェイトが高い日経平均の上昇幅が拡大し、下旬には一時6万円を突破しました。台湾、韓国も大幅上昇しました。

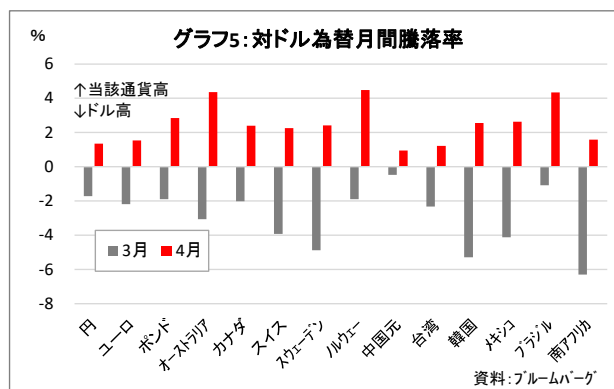
② 内外債券 (長期金利) ～概ね横ばい

原油価格の急上昇を背景に3月はインフレ懸念が高まり各国長期金利が上昇しましたが、4月は比較的落ち着いた展開となり概ね横ばいで終わりました。ただしガソリン補助金等から日本の財政赤字拡大懸念が高まり、10年国債利回りは1999年「資金運用部ショック」の水準を上回りました。



③ 為替 ～ドルが反落

ドル高が進行した3月から一転し4月はドルが反落しました。ただし円は軟調に推移し一時160円台まで円安が進行しましたが、月末に円買い介入が入ったと報じられ155円台まで値を戻し、ユーロ円はほぼ横ばいで終わりました。オーストラリア等の資源国やブラジル等の新興国通貨が堅調に推移しました。



3. 4月の主な出来事

① イラン情勢を背景に神経質な展開が継続

国際社会のみならず金融市場でもトランプ大統領が主役となりました。「イランを石器時代に戻す」といった過激な発言で市場の不安感を高める一方、突然「2週間の停戦で合意」と発表する等、市場は右往左往させられました。ただし株式市場では徐々に「TACO（トランプはいつも怖気づく）」という安心感が広がりました。AI、半導体関連銘柄が指数を押し上げ日経平均、米国 S&P500、NASDAQ 総合指数等、日米主要指数は史上最高値を更新しました。

② 日米欧とも政策金利は据え置き

月末に日米欧の中央銀行金融政策決定会合が開催され、いずれも予想通り政策金利は据え置きとなりました。中東情勢を背景に物価上昇圧力が高まる一方で景気減速も懸念されることから、現在の流動的な状況では判断が難しく様子を見たいということでしょう。5月中旬にパウエル米国FRB議長は任期を迎えます。後任に指名されたウォーシュ氏の上院での手続きは難航したものの、上院銀行委員会は共和党多数で承認、5月の本会議での採決を経て就任となります。

③ その他

4月29日にドル円為替は160円を突破しましたが、翌30日に円買い介入が入った模様で一時155円台まで円高に振れました。ゴールデンウィークで市場参加者が減少する前に先手を打ったということでしょう。

トランプ大統領が出席した晩餐会で発砲事件が起きました。警官1名の負傷に留まりましたが、11月の中間選挙を控え米国の分断は深刻な状況のようです。

アラブ首長国連邦(UAE)が石油輸出国機構(OPEC)を離脱すると発表しました。サウジアラビアとの対立が背景のようですが、OPECで3番目の生産国の脱退は原油市場で米国やロシアの存在感が高まるなか更なる影響力の低下となりそうです。

4. 5月の注目点

① イラン情勢、米中首脳会談

トランプ大統領はホルムズ海峡の「逆封鎖」長期化を示唆しています。現在のところ見通しはたまた引き続き同大統領の発言に振り回される展開となりそうです。14日から2日間の予定でトランプ大統領は訪中し習近平主席との首脳会談を行う予定です。中東関連のみならずレアアース等の通商問題もテーマになるとみられ金融市場の焦点にもなりそうです。

② 金融政策決定会合

主要国の予定はありません。米国では15日にウォーシュ氏がFRB議長に就任する予定です。最初のFOMC（金融政策決定会合）は6月16～17日となります。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2026年3月以降のレポート

- 3月 2日号 2月の市場動向と3月の注目点
- 3月 12日号 イラン攻撃後の金融市場
- 3月 23日号 イラン攻撃後の金融市場 その2
- 4月 1日号 3月の市場動向と4月の注目点
- 4月 6日号 2025年度の金融市場
- 4月 8日号 2025年度第4四半期の市場動向と今後の注目点
- 4月 23日号 イラン攻撃後の金融市場 その3
- 4月 30日号 日米当局は予想通り政策金利を据え置き、今後の判断は困難に

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人資産運用業協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号
電話 03 - 4223 - 3145

*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。